

## 第6学年 国語科学習指導案

1 単元名            私の「推し」を紹介します！ 「発見、日本文化のみりよく」

2 単元の目標

(1) 表現や反復などの表現の工夫に気付くことができる。

〔知識及び技能〕(1)ク

(2) 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ

(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

〔学びに向かう力、人間性等〕

3 評価規準

| 知識・技能                        | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度   |
|------------------------------|---|---|
| ①表現や反復などの表現の工夫に気付いている。((1)ク) | ①「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。<br><br>(B(1)ウ) | ①論の進め方について粘り強く考えたり、書き表し方を工夫したりし、学習の見通しをもって自分の好きなもののよさを伝える文章を書こうとしている。 |

4 単元について

(1) 本単元で扱う教材と行う言語活動について

本単元は、関連単元である『鳥獣戯画』を読む』を読んで捉えた筆者の工夫を生かして、自分の好きなもののよさを文章に書いて伝える、「書くこと」の単元である。

『鳥獣戯画』を読む』は、筆者が「漫画の祖・アニメの祖」ともいわれる『鳥獣戯画』への愛おしさを語る説明的な文章である。実際の絵が多く掲載されており、また筆者独自の表現や論の進め方に目が向く文章である。あえて絵を切り離して場面ごとに説明して『鳥獣戯画』の価値を表現するだけでなく、書き出しや会話文、体言止め、呼びかけなど、読み手をひきつける表現の工夫が随所に散りばめられている。これら筆者のものの見方や考え方、表現の工夫、論の進め方などの表現技術や熱量を読み取っていく。そうして気付いた筆者の工夫を生かして、「書くこと」として自らの表現に生かすことができれば、より本質的な学びになるだろうと考えた。

そこで、本単元では、「私の『推し』をしょうかいします」という言語活動を設定し、『鳥獣戯画』を読む』で気付いた筆者の工夫を生かして、自分の推しのよさを紹介する文章を書いて他者に読んでもらい、興味をもってもらうという活動を学習のゴールに位置付ける。「推し」とは元々は自分

が推薦する、主にアイドルや俳優について用いられる俗語である。児童の間ではそこから転じて、アイドルや俳優だけでなく、キャラクターや作品そのもの、「電車」といったものなど、自分が特に好きなものを指す言葉として使われている。本学級の児童は、日頃から何推しなのか話したり、推しの好きなところを伝えたりしているため、自分の推しを紹介することで意欲を高め、学習の見通しをもちやすくすることができるだろう。さらに、児童は紹介する文章を読んだ人に自分の推しについて「よさを知ってもらいたい。」「興味をもってもらいたい。」という目的をもって学習に取り組んでいくことができると考えた。そうすることで、児童が紹介する文章を考える際にただらと書きたいことを書いていくのではなく、あらすじや概略などの基本的な情報は簡単に、自分が推すポイントは詳しくなるように自然と書き表し方を工夫していくことができいくと思われる。

また、推しを紹介する相手として、千葉市にALTを派遣している「ボーダーリンク」のALTの方々を設定した。ALTの方々は日本在住期間が長く、日本語も習得している方が多くいる一方、児童からは「外国人」として、あまり日本の文化に慣れ親しんでいない印象をもたれている。そのため、今回紹介する推しは日本で産まれたものとする。自分の推しをよく知らない外国人に自分の推しのよさを伝え、興味関心をもってもらうために、表現を工夫したり、絵や写真を使ったりするなどの工夫を進んで行うだろうと考えた。

## (2) 本単元で身に付けさせたい力について

本単元は、小学校学習指導要領〔第5学年及び第6学年〕の「B 書くこと」の指導事項である

(1)「ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。」の 資質・能力の育成を目指す。

自分のものの見方や考え方などの伝えたいことを相手に明確に伝えるために書き表し方を工夫する力を身に付けさせたい。

## (3) (1) (2) の基盤となる言語環境や継続的な取組

○国語タイムを活用した「短作文タイム」の実施

本校では、毎週金曜日の朝の10分間を、語彙の拡充を目的とした「国語タイム」として設定している。その時間を活用して、100～200字程度で自分の考えを書く「短作文タイム」を実施する。「はじめ」、「中」、「終わり」の3部構成で、接続詞を使って短い作文を書く活動を繰り返すことで、書くことの習慣化を図ることができるだろうと考えた。書く内容は、「知らない人にお題のものを紹介する」とする。「『鳥獣戯画』を読む」で学んだ表現の工夫や構成の工夫を取り入れている児童の文章を共有し、推しを紹介する文章を書く際に生かせるようにしていく。

また、役割ごとに分けた接続詞の一覧を教室に掲示することで、自分の文章構成に合った接続詞を選択できる力を養いたい。

## 5 手立てについて

### ①一人一人の学習進度や能力に合わせた学習計画の設定

本学級は学力の差が大きく、支援が必要な児童も多く在籍している。そのため、「書くこと」の学習に取り組む際には、①情報の整理・分析②文書構成の検討③文章の作成④推敲の過程で自由進度学習をしていく。学習形態も個別学習だけでなく、ペアやグループなど、自分の必要感に応じて選択できるようにする。自分のペースに合った速さで、自分の必要感に合わせた学習形態で学習を進めていくことで、どの児童も主体的に学習に取り組むことができると考えた。教師は児童の振り返りや学習の様子から児童のつまづきを見取り、個別支援を中心にしていきたい。そのため、児童がどの学習過程にいるのか、掲示し、学級全体で共有できるようにする。また、一人で学習を進めてしまうことがないように、友達の学習の取り組み状況を確認する時間を確保したり、必要に応じて友達と交流しながら学習したりすることができるようにしていく。多様な考えに触れることで、児童自身で内容を修正したり、発展させたりすることができるだろう。

### ②ゴールのイメージを明確にするためのルーブリックの設定

学習を終えた後の姿を明確にするために、以下のようなルーブリックを作成する [図2]。

|     | ◎  | ○  | △  |
|-----|--|--|--|
| 文章力 | 「○」に加えて、根拠を明確にしながら自分の考えが伝わる文章を書いている。                 | 伝えたいことに合わせて、簡単に書いたり、詳しく書いたりしながら、事実と自分の考えを区別して文章を書いている。 | 伝えたいことに合わせて、簡単に書いたり、詳しく書いていなかったり、事実と自分の考えを区別しないで文章を書いたりしている。 |
| 工夫力 | よさがさらによりよく伝わるように、複数の表現の工夫や、効果的な構成の工夫や写真の使い方の工夫をしている。 | よさがよりよく伝わるように、構成や表現、写真の使い方を工夫している。                     | よさがよりよく伝わるように、構成や表現、写真の使い方を工夫していない。                          |

[図2 「書くこと」のルーブリック 例]

評価の段階は「◎」「○」「△」の三段階とし、「思考・判断・表現」の評価基準を「文章力」と「表現力」に分けて考えた。最初の時間に話し合い、身に付けたい力を押さえながら児童の文言で作成をしていく。児童の言葉で具体的なゴールの姿を設定することで、児童は自分に合ったゴールの姿を目標に学習を進めていくことができると考えた。毎時間の最初には、自分が選んだ姿になるために、どのように学習をすればいいのかめあてを立て、毎時間の最後にはめあてに対する振り返りを行い、自分が選んだ姿になるためにはどのように学習を調整すればいいのかを考えさせたい。めあてと振り返りは「ミライシード」の「オクリンク」で作成する。「オクリンク」は作成したカードをつなげたり、友達と共有したりすることが容易にできるため、自分の前時の振り返りを基にしたり、友達の取り組み方を参考にしたりしてめあてを立てることができると考えた。

### ③調べたことと自分の考えを分けて整理するための「構成メモ」の活用

児童は多様な情報を収集してくることが予想される。そのため、「Xチャート」を使用して、その情報はどんな「よさ」の情報なのか整理していく。そうすることで、必要な情報とそうでない情報を整理することができるだろう。そのXチャートで整理した情報を基に、「構成メモ」をギガタブの「SKY メニュー」アプリの「発表ノート」で作成する。「構成メモ」は、「始め」、「中」、「終わり」の3段構成でそれぞれにどのようなことを書くのかを箇条書きで記入していく。特に児童がつまずくと予想されるのは「中」の部分である。そこで、「中」は1つのよさに対して、「事実（調べた情報）」と「自分の考え」を分けて記入する。事実の付箋はピンク色、「自分の考え」は青色と色を分けることで、事実と自分の考えを分ける意識を高めることができると考えた。

6 指導計画（全8時間）

| 次 | 時 | 学習活動   | 指導上の留意点   | 評価基準<br>評価方法等 | 情報収集   |
|---|---|--|---|---------------|--|
| 一 | 1 | <p>○教師のモデル文を読み、学習の見通しをもつ。</p> <p>○学習計画を立てる。</p>  | <p>○教師のモデル文を児童に配付し、文章を工夫して推しのよいところを「ボーダーリンク」の方々に伝えるという目的意識をもたせ、主体的に学習に取り組めるようにする。</p> <p>○既習学習を想起させ、どのような計画で進めていけば推しのよさを伝える文章を書くことができるか話し合わせるようにする。</p> |               | <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">紹介したい推しのよさの情報を収集する。</p> |
|   | 2 | <p>○教師のモデル文を読み、学習のポイントを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">〈学習のポイント〉</p> <p><b>【文章力】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたいことに合わせて、簡単に書いたり、詳しく書いたりする</li> <li>・事実と自分の考えを区別して文章を書く</li> </ul> <p><b>【工夫力】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よさがよりよく伝わるように文章の構成を工夫する</li> <li>・よさがよりよく伝わるように表現を工夫する</li> <li>・よさがよりよく伝わるように写真の使い方を工夫する</li> </ul> </div> <p>○ループリックを作り、ゴールの姿を明確にする。</p> | <p>○モデル文と工夫をしていない文を比較させ、学習のポイントに気付くことができるようにする。</p> <p>○学習のポイントを基に「文章力」と「工夫力」に分けてループリックの文言を話し合っって作るようにする。</p>   |               |  |

|  |  |   |   |  |
|--|--|---|---|--|
| <p>3<br/>・<br/>4<br/>・<br/>5<br/>本<br/>時<br/>・<br/>6<br/>・<br/>7</p> | <p>○「気づきメモ」に集めた情報を「Xチャート」を使って整理・分析する。</p> <p>○文章の構成を考えて「構成メモ」を作成する。</p> <p>○推しのよさが伝わるように文章を書く。</p> <p>○書いた文章を推敲する。</p> | <p>○児童の振り返りや学習状況を基に机間指導を行い、適宜個別に指導や支援を行う。</p> <p>○本時のめあてを立てる際にはルーブリックを意識させ、「この時間の最後になっていた姿」と「そのためにすること」を書くよう指導する。</p> <p>○自分の推しのよいところを4つの部屋に整理するとき、「Xチャート」は全て埋める必要はないことを伝える。</p> <p>○「事実（調べた情報）」と「自分の考え」を分けて記入する。事実の付箋はピンク色、「自分の考え」は青色と色を分けるようにする。</p> <p>○書きあがった文章は「気づきメモ」で共有させ、推敲し合えるようにする。</p> <p>○ルーブリックの「文章力」、「工夫力」の観点を推敲の観点とし、ドキュメントで書いた児童はアプリ上で、紙に書いた児童は付箋でコメントをもらうようにする。なお、必ず口頭でも直接伝えるよう指導する。</p> <p>○毎時間の最後には必ず友達と交流する時間を設け、自分の学習調整に生かせるようにする。</p> | <div data-bbox="991 210 1214 421" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[知識・技能①]<br/><u>ワークシート</u><br/>表現の工夫に気づいているかの確認</p> </div> <div data-bbox="991 439 1214 887" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[思考・判断・表現②]<br/><u>ギガタブ</u><br/>目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いているかの確認</p> </div> <div data-bbox="991 904 1214 1352" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[主体的に学習に取り組む態度]<br/><u>観察・振り返り</u><br/>粘り強く試行錯誤して、学習の見通しをもって自分の好きなもののよさを伝える文章を書いているかの確認。</p> </div> |  |
|--|--|---|---|--|

|   |    |   |   |  |  |
|---|----|---|---|--|--|
| 三 | 8  | ○書いた文章を友達と読み合い、よいところを伝え合う。<br><br>○学習のまとめをする  | ○一人ひとりの能力、紹介する内容を考慮して1グループ4～5でグループ編成をする。<br><br>○評価の観点はループリックの観点であることを確認する。 |  |  |
|   | 課外 | ○「ボーダーリンク」のALTの方々に推しのよさを伝える文章を読んでもらい、感想をもらおう。 | ○伝えなかった相手に意見文を読んでもらい、感想をもらうことで、達成感を味わえるようにし、今後の学習に対する意欲を高める。                |  |  |

10 本時の指導（5/8）

(1) 本時の目標

- ・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ

(2) 展開

| 主な学習活動と内容  | 指導や支援の手立て（◇評価）  |
|--|---|
| 1 本時のめあてを確認する。   | ○前時までの学習状況を事前に確認し、再度確認した方がよい学習のポイントを確認する。   |
| 推しのよさが伝わるように文章を書こう。  |   |
| 2 自分のめあてを考える。<br>〈予想される児童のめあて〉<br><b>【進度が遅い児童】</b><br>・自分の考えと事実が区別できるようにするために、Xチャートをもとに、「中」を整理する<br><b>【1時間ごとに進んでいる児童】</b><br>・推しのよさが伝わる文章になるように、構成を双括型にして、表現の仕方を工夫して文章を書く | ○本時のめあてを立てる際にはループリックを意識させ、「この時間の最後になりたい姿」と「そのためにすること」を書くよう指導する。<br><br>○前時の学習を振り返り、本時のめあてを立てるように指導する。 |

|   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・推しのよさを体言止めを使って書いていき、読む人に伝わりやすくなるようにする。</li> </ul> <p><b>【進度が早い児童】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推しのよさが更に伝わる文章になるよう、友達と書いた文章を読み合い、よりよくするポイントを話し合う。</li> <li>・推しのよいところがもっと伝わるように、文に合った画像を見つける。</li> </ul> <p>3 自分のめあてに沿って学習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の構成を考えて「構成メモ」を作成する。</li> <li>・推しのよさが伝わるように文章を書く。</li> <li>・書いた文章を推敲する。</li> </ul> <p>4 友達と本時の学習内容を交流する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の振り返りやめあて、学習状況を基に机間指導を行い、適宜個別に指導や支援を行う。</li> <li>○児童のめあてを全体に共有し、参考にしたかったり、一緒に考えたかったりする友達に適宜声をかけにいいことを伝える。</li> <li>○自分がどの学習過程にいるのか一覧にして掲示できるようにし、必要に応じて、友達とペアになったりグループになったりできるようにする。</li> <li>○「事実（調べた情報）」と「自分の考え」を分けて記入する。事実の付箋はピンク色、「自分の考え」は青色と色を分けるようにする。</li> <li>○書き上がった文章は「気づきメモ」で共有させ、推敲し合えるようにする。</li> <li>○ルーブリックの「文章力」、「工夫力」の観点を推敲の観点とし、ドキュメントで書いた児童はアプリ上で、紙に書いた児童は付箋でコメントをもらうようにする。なお、必ず口頭でも直接伝えるよう指導する。</li> </ul> <p>◇【思・判・表①】</p> <p>目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のポイントを押さえて学習できているか、同じ進度の友達や、少し先に進んでいる友達と交流する。</li> </ul> |
|---|--|

|                  |  |
|------------------|--|
| 5 学習の振り返りの共有をする。 | ○他の児童の参考になるように、どのように書くことができたのかを具体的に記述している児童の振り返りを共有する。 |
| 6 次時の学習の見通しをもつ。  |  |